※令和４年度以降入学生用

学校番号	2001

令和８年度　公民科

教科	公民	科目	倫理演習	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等	アプローチ倫理資料ＰＬＵＳ（東京法令出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・日本の思想および代表的な思想家について、太古からある日本の風土に根ざした人々の営みに思いをはせつつ、外来の思想・宗教をいかに理解・受容してきたかを学び、これからの日本に暮らす君たちの糧としてほしい。
・併せて、源流、近代、現代の世界思想も学ぶが、２年次に学習したことを基盤として、より深い理解につながるよう期待する。
・読解力が求められる科目なので、新書等でしっかりした文章を読むことを勧める。

2　学習の到達目標

・日本思想について、外来の思想・宗教が伝わる以前の考え方を基本として、仏教伝来以降の外来文化受容の流れを理解する。併せて、各思想家の考え方に触れる。
・世界の源流、近代、現代の思想を復習し、現代社会とのつながりを考察する。
・倫理で学んだことを今後の自分の人生にどう活かすか、また、どのような社会を築いていくべきなのかを考える。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	日本古来の考え方は現在にも伝わり、一方で仏教をはじめとする外来の思想・文化を受容してきたこと、及び日本の思想家について理解する。 世界の思想について、より深い理解を得る。	日本は、古来の考え方を保ちつつ、外来の思想・文化を受容してきた経過を、歴史的にとらえる見方を獲得する。とくに日本独自の理解をしてきたことに気づく。 世界の思想について、日本も含めて、科目の内容が単なる理解に終わるのではなく、とくに生命倫理や環境倫理、高度情報社会に関することなど、現実の自分の生き方につなげて考える姿勢をもつ。	日本、世界を問わず、各思想家に関心を持ち、とくに興味をもった人物についてより深く調べる。 与えられた課題等について、単にそれを完成されるだけでなく、それが実際の社会、場面にどうつながるかを考察する。現代が極めて不安定な状況であることを踏まえ、学んだことをどう活かせるを考える。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	日本人としての自覚	・日本の風土と思想 ・仏教の受容と展開 ・儒教の受容と展開 ・日本文化と国学 ・近世の民衆思想 ・幕末の思想 ・西洋思想の受容と展開 ・日本思想の展開	a:日本古来のものの見方・考え方を知り、それが基盤となって外来の思想・文化を受容してきた経過を理解する。 b:各思想家に触れ、それぞれに日本独自の考え方が、様々な形で影響していることに気づく。 C:日本に暮らす一人として、日本古来の文化が自分にも影響していることを意識しつつ、学習した内容が今後にどう活かせるかを考察する。	定期考査	定期考査 授業ﾌﾟﾘﾝﾄ	課題ﾚﾎﾟｰﾄ 授業ﾌﾟﾘﾝﾄ
二学期	源流思想、現代の思想と倫理	・源流思想、三大宗教 ・近代西洋思想 ・現代の思想と倫理	a:　２年次に学んだ(一部２年次に「倫理」未履修の生徒がいる)世界の思想及び思想家についてより深く理解する。 b:とくに近代西洋思想を中心に、各思想家の時代背景や、後世への影響について考察する。 ｃ：１学期同様、自らに引き付けてとらえ、学んだことを今後にどう活かせるかを考察する。	定期考査 小テスト	定期考査 授業ﾌﾟﾘﾝﾄ	課題ﾚﾎﾟｰﾄ 授業ﾌﾟﾘﾝﾄ
三学期	学習のまとめ	・学習した思想家を振り返る。 ・今後の展望	a:　各時代、および現代の思想および思想家を改めて振り返る。 b:日本が外来の思想・文化を受容してきた経過を振り返り、現代における日本と世界との関係、および自分自身への影響を考察する。 c:とくに興味をもった思想家について深く調べ、現代とどうつながっているかを考察する。	定期考査 小テスト	授業ﾌﾟﾘﾝﾄ	課題ﾚﾎﾟｰﾄ 授業ﾌﾟﾘﾝﾄ

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度